

## 営農組合の更なるステップアップをめざして

### 1 はじめに

福崎普及センターでは、神崎郡内における集落営農組織（78組織）の経営を向上させるため、「パソコンによる複式簿記」の導入を県下に先駆けて行ってきた。その間、記帳や分析等の支援活動を行う中で、経営内容を「数値」として把握し、経営方針や改善方策を樹立・実践する営農組織ができてくるなど、着実に経営のステップアップがなされつつある。

### 2 活動の概要

1999年度から普及センターでは郡内各町及びJAの協力のもと、集落営農組織自らの正しい会計システムの構築と経営内容把握を目的に、パソコンを用いた集落営農簿記研修会を開催している。

また、各集落営農組織で作成された決算書を経営分析に活用するために、専門技術員の協力の下、財務分析手法を用いて2001年度から4年間分の延べ50組織分の集計分析を行い、財務状況や収益性、生産性を判断する分析指標や得られた分析数値を比較する基準値を作成した。

それを基に経営改善が必要な集落営農組織を対象に、個別コンサルテーションを実施し、基準値に到達していない分析項目の改善策について検討を重ね、今後の方向性について意識付けを行った。

また、集落の抱える問題点や課題の改善方法につ

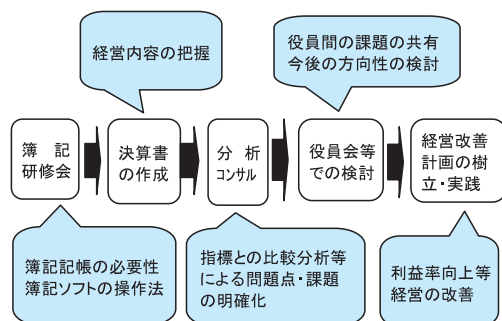


図1 集落営農組織支援の流れと目的

いてディスカッションの場を設けるとともに、経営改善計画の樹立の際には助言を行う等、具体的な集落営農組合のビジョンを描けるよう支援を行った。

### 3 活動の成果

講習会には毎年度平均32名の受講者があり、簿記記帳及び経営内容の把握が重要であるという意識が浸透してきた。また、年度末を中心に個別指導を行い確実に決算書が作成できるよう支援を行ったことで、昨年度までに決算書を作成した集落営農組織数が33組織と、全体の42%を占めるまでに至った。

また、経営改善計画を樹立した営農組合では収益性の高い水稻の作付面積を増やすとともに、労賃単価や地代を引き下げ等に取り組み、経営内容の改善を実施した。

今後、集落営農組織の「経理の一元化」が求められる中、決算書を基に経営内容を正確に把握し、課題を明確に意識するとともに、自らの考えで経営改善に取り組むことは組織の維持・発展において重要であることから、このような集落営農組織が増えるように支援を続けていく。

山口 洋（北淡路農業改良普及センター）  
旧所属 福崎農業改良普及センター  
（問い合わせ先 電話：0790 - 22 - 0221）



図2 役員会における課題の共有化